

平成29年新年会

2017年の千葉滋賀県人会の新年会が2月12日（日）午後、三井ガーデンホテル千葉にて開催され、57名の参加を得ました。

今年度は会員数増強の取り組みとして、試験的に幹事の出身高校同窓の方への入会勧誘を行いました結果、新たに14名の方が新規に入会され、会の運営に一層の活況を帯びることとなりました。

中村会長からは、新入会員に対する歓待と、更なる会員数の増強に対する各会員の協力の呼びかけ、及び自身が平成28年度の国土交通大臣功労賞を受賞した経緯と、お祝いに対する感謝の弁がありました。

続いて、新年会恒例の講演は世界冒険家の砂川博昭氏でテーマは「定年だ！世界一周」…サラリーマンから解放された定年おやじのハラハラドキドキ世界一周一人旅…でした。砂川氏は佐倉市在住で36年間のサラリーマン生活を終えて、平成27年4月～28年1月に28か国219日間の念願の世界の旅を始め、その後もさらに活動されています。講演の内容は、ネパールではヒマラヤのカラパタール5550mに登り、地震の二日前に出国。アフリカでは外国人達とトラックバスで1万2千キロ56日間のキャンプ生活。キリマンジャロ登頂。南極、アマゾン川下りなど、パック旅行では味わえない経験と友人を得たことなどを、限られた講演時間内で、画像を交え熱っぽく話されました。

講演に続く参加者全員の記念撮影の後、懇親会に入り、滋賀県東京事務所の田中成美所長代理が来賓挨拶で滋賀県の情報発信を一層強化するため、今秋東京日本橋に「首都圏情報発信拠点」をオープンすること、そして当会新会員でもある植野克美氏（東京滋賀県人会常務理事）の発声で乾杯。

その後各テーブルを中心として和やかな談笑が続きました。その間、初出席者8名の自己紹介、恒例の「琵琶湖周航の歌」の斉唱をし、故郷「奥伊吹甲津原味噌」と「梅花藻入り名水そば」と中村浩会長提供の「たねや」の和菓子を手土産にお開きとなりました。